

前期 - 中期更新世境界の GSSP 認定について審査が進行している状況ですが、その申請について疑義が申し立てられています。地学団体研究会としては、学術的に問題がないこと、さらにはこの申請の啓発活動を推進していることを表明します。

2019 年 7 月 29 日

「チバニアン」に関する声明

地学団体研究会 全国運営委員会

2018 年 11 月、地学団体研究会（以下地団研）会員を含む千葉セクション申請チームにより国際地質科学連合（IUGS）内の第四紀層序小委員会（SQS）で、前期 - 中期更新世境界の国際層序模式層断面及び地点（GSSP）として千葉県市原市にある養老川セクションなど（以下千葉セクション）が認められ、上部の委員会に答申されることになりました。今後、ICS（国際層序委員会）、IUGS（国際地質科学連合）の審査を通過すれば、千葉セクションが GSSP として正式に認定され、約 77 万年前～約 12 万 6 千年前の地質時代の名称が「チバニアン期」と名付けられます。これが認定されれば日本では初の GSSP 認定であり、日本の地球科学だけでなく、日本の科学史においても大きな出来事になります。

本申請について、2015 年以降研究成果についての疑義があることが告発され、一時は審査が中断されることとなりました。申請チームにより 2015 年以降新たな学術論文により示された研究データも含めた申請書の改訂を行い、2018 年 7 月に審査の第 2 ステップである SQS でこれが認められたこととなります。

地団研としては、2018 年総会（千葉県市原市）において会員向けに千葉セクション周辺の巡検を企画するだけでなく、申請チーム代表である茨城大学の岡田誠教授を招いた一般市民向け講演「チバニアンと地質学」の実施、小冊子「チバニアン（千葉時代）解説パンフレット」（100 円で頒布）を作成して市原市などへも寄贈するなど、その申請内容について市民への啓発を行っています。

これまでに、地団研として申請内容に学術的な問題はなく、適切に作業が進んでいることを確認しています。一方、地権者との関係や、それに関連した市原市の新条例（市原市養老川流域田淵の地磁気逆転地層の試料採取のための立ち入り等に関する条例）（案）など、指定に向けた課題もあることを確認しました。今後とも、本申請についての科学的な普及・啓発を行うとともに、IUGS による科学的判断を待ちたいと思います。